

地震予知の決定版「逆ラジオ」を開発 電磁波ノイズを検出して 地震大国日本を救う

新興技術研究所(世田谷区砧、熊谷行裕社長、03・3417・1801)は、生産自動化設備の技術のコンサルテーションから設計、製作稼働までを本業とし、創造と開発を続けて50年になる。今まで培ってきた知識や技術を活かし、現在では地震予知の研究・開発にも力を注いでいる。

きっかけは1995年に発生した阪神大震災。「震災で多くの人の命が失われた。地震を予知することはできないのか?」という思いで、文献を調査した結果、地震の発生前には電磁波ノイズが出るということが判明した。

そこで、地震予知の電磁波ノイズ検出方法を研究し、地震予知装置「逆ラジオ」を開発。この装置は、地震前に大規模に発生する大気中の中波帯の電磁波ノイズを測定し、地震発生の予知を行うもので、



地震予知装置「逆ラジオ」

実際に多くの地震予知に成功している。

現在、全国の企業・団体の賛同協力を受けて、80箇所以上に観測点を設置、地震予知情報配信サービス「くるかも」を有料会員向けサービスとして実施している。東日本大震災では過去のデータの何百倍もの巨大データが検出され、会員に「警戒メール」を配信していた。しかし、当時は東北地区での有効観測点は仙台のみであり、絶対の確信が持てなかった。「もっと多くの有効な観測点があつて、確信を持って強調し発表していれば、まだ何人かの人を救えたかもしれない」と後悔している。予知精度を向上させるには観測点がまだまだ不足で、日本中に3000箇所は必要。引き続き協力いただける企業や団体を募集している。

詳しくはホームページにて

<http://www.saij24.net/~serc/>

予測情報公開日時:2012年09月11日 13:31

■発生日:	2012年9月15日+10日
■場所:	盛岡周辺200km範囲
■規模:	観測点から100kmならM4.8±0.5程度

継続予測:8/25盛岡に大きい一本立ちが出ました。前例と他の条件を加味しての「9/15+10盛岡周辺200km範囲100kmならM4.8±0.5程度」をそのまま継続します。

総合評価:ズバリの中

「9/18岩手県沖M4.9」が発生しました。8/25盛岡の大きい一本立ちで、前例と他の条件を加味しての「9/15+10盛岡周辺200km範囲100kmならM4.8±0.5程度」にピッタリ中です。

「9/18 岩手県沖 M4.9」の予測情報的中例